

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立土居高等学校)

学校番号(3)

評価実施日		令和6年2月16日(金)	
委員	氏名	所属等	備考
	合田 泰之	四国中央市立土居中学校 校長	新規
	日野 好基	四国中央市立土居文化会館 館長	新規
	戸梶 裕士	伊予銀行土居支店 支店長	新規
	阪中 洋	福助工業株式会社 人事部長	継続
	古川 龍太郎	出雲大社土居教会 副長	継続
	石川 明日香	土居高等学校PTA会長	新規

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学力・進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の学習態度は落ち着いており、積極的に授業に参加している。楽しい雰囲気の中にも、目標を意識して取り組む姿勢が見られた。・一人一台端末や学習支援アプリなど、ICTの効果的な活用が図られているほか、グループワークを取り入れて学びを深めるなど、教員が工夫して、生徒の主体的な活動を促す授業を行っている。・家庭学習時間は目標に届いていないものの、1学年は、昨年度よりも学習時間が増加した。進学に向けた学力向上のため、家庭での学習を促す効果的な課題の与え方等を検討する必要がある。・進学では、難関私立大学の合格者が増加した。就職では、全ての生徒が、希望する企業の内定を得ており、地域からの評価も高い。	<ul style="list-style-type: none">・スクールポリシー等にも示されているとおり、今後も全教職員で「分かる授業」を目標に取り組み、確かな学力の定着を図る。・学習やアンケート調査等において、一人一台端末等の活用を更に推進するとともに、他校の授業研修等へ積極的な参加を促し、全教職員が効果的な活用ができるように研究を進める。・家庭学習においても、各教科からの一人一台端末を活用した課題の提示等を工夫し、学習時間の確保を促していく。・個別指導の充実を図るとともに、インターンシップや企業訪問など、体験活動を重視した進路指導を継続し、一人一人の生徒の進路実現に丁寧に関わる。
<p>2 生徒指導・安全教育</p> <ul style="list-style-type: none">・校内で出会う生徒は、明るく生き生きとしており、さわやかな挨拶ができています。生徒一人一人に対する丁寧な指導の成果が出ている。・四国中央警察署と合同で、朝の通学指導や体験型の交通安全教室などを継続的に実施しており、登下校中の安全にも配慮されている。・SNSなどによるトラブルについては、県警による生徒向けの講座等を活用し、実際の事例に基づいた啓発によって未然防止の取組が進められている。	<ul style="list-style-type: none">・教育活動全体を通して、普段から生徒と教師間の良好な関係づくりに取り組むとともに、挨拶運動や挨拶に関するアンケート等を通して意識付けを図っていく。・交通安全に関する指導を一層充実させるため、PTA等と連携した地域ぐるみでの取組を目指すとともに、委員会等を中心とした生徒からの啓発を継続する。・SNS等を使用する際の責任について、外部人材等と連携しながら丁寧な指導を続けるとともに、保護者への周知を徹底する。
<p>3 豊かな人間性・個性の伸長</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア活動や交流活動については、昨年度よりも参加生徒数及び実施回数とも増加した。地域に貢献するために主体的に行動する生徒が育まれており、地域からの信頼も厚い。・生徒及び教員数が減少する中で、部活動の数は変更されていないため、部員不足による様々な課題が解決されていない。部活動全体の活性化を目指した部の再編等について、具体的に考える必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・今後も、様々な生徒が生き生きと活動できる場面を多く設定するとともに、各コースの特徴を生かした新たな交流活動等の実施を通して、更なる学校の魅力の発信を継続する。・部活動数の減少は、本校志願者の減少につながる恐れがあるため、部活動に対する中学生のニーズ等を調査しながら慎重に検討する。学校の実情に応じた精選等に取り組みたい。
<p>4 地域との連携・学校の魅力化</p> <ul style="list-style-type: none">・ラブリバー活動など、土居地域独自のボランティア活動に継続して参加している生徒もいる。地域への愛着を持つ生徒を育てるために行われている取組について、今後も充実を図ってほしい。・学校ホームページの更新回数は昨年を上回り、アクセス数も増加傾向にある。テレビ番組の取材を受けるなど、積極的な情報発信が行われている。・土居高校に対しては、中学校の教員や保護者は好印象を持っているが、地元中学生の志願に結びつかず、異なる地域や高校へ流出する傾向がある。地域における中高の連携を更に強める必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・地域と連携して実施される活動への参加を呼び掛ける。特に、各コースの特徴を生かして参加できる交流活動や各種コンテスト活動等には、引き続き優先して参加する。・生徒の活動等が、保護者へ具体的に伝わる記事の掲載を心掛ける。プレスリリース等を通して、学校の活動や魅力を地域全体へ広く発信する取組を継続する。・中学生が、身近な先輩の言葉を聞くことができる機会を増やす。一日体験入学や進路説明会等の際に、高校生と中学生が直接交流できる場面を設定する。
<p>5 現職教育・業務改善</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員の時間外労働時間の減少については、昨年度より若干改善されたものの、依然目標が達成できていない。早目に帰宅する期間等の設定など、各人が業務改善を意識する取組を検討する必要がある。・時間外勤務については、熱意を持ち、やりがいを感じながら業務を担当している場合も多いのではないかと。業務の量やバランス等が適切な状況にあるかを随時確認していくことが求められる。	<ul style="list-style-type: none">・校務支援システムや一人一台端末等のICTを用いた業務の効率化と、教員間の適切な業務配分に引き続き取り組む。会議や行事等の精選を更に進め、負担の軽減を進める。・引き続き、勤務時間の適正な管理に留意し、学校全体で支え合いながら業務を進められるよう調整する。衛生委員会等の充実を図り、教職員のメンタルヘルスが良好な状況を維持する。
<p>6 その他、全般</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートでは、どの項目も生徒の満足度が高く、生徒一人一人に寄り添った学校の指導が成果として表れている。家庭や地域と一体となって更に高い教育効果を生み出す方法を、引き続き検討してもらいたい。・学校から積極的に発信されている情報が、地域や保護者へ十分に伝わっていない状況がある。丁寧な指導を行っている学校の強みや特徴が分かりやすく伝わる方法等を検討してはどうか。	<ul style="list-style-type: none">・より高い目標に向かって、全校生徒が取り組むことができるように丁寧な指導を継続する。学校の取組が、生徒の成長と地域等への貢献につながっていることを、随時ホームページ等を通じて、丁寧に発信していく。・学校説明会等で使用した各コースの紹介動画を更に充実させ、ホームページ上に公開することを検討したい。